

Monthly Book Medical Rehabilitation No.267 正誤表

特集／実践！在宅摂食嚥下リハビリテーション診療

本誌掲載のご論文『在宅における摂食嚥下リハビリテーションー作業療法士の立場で：食具と福祉用具、在宅連携のピットホールについて』（p.93-100）におきまして、引用元を明記していない図表を掲載いたしましたことを、深くお詫び申し上げますとともに、引用元をお知らせいたします。

著者の先生、ならびにご関係者の皆様に深くお詫びし、訂正申し上げます。

2022年3月1日 全日本病院出版会

p.99 表1.NSTにおける作業療法士の役割

表 1. NST における作業療法士の役割

① 栄養管理プラン	<ul style="list-style-type: none">・ チームの栄養管理が対象者の目指す生活や活動・参加を最大限可能とするようチームを指向させる。・ 病院・施設内での生活状況や活動の状況を NST に提示し、現在の生活に必要なエネルギー量や、今後の生活における活動と参加の実現に向けて、どの程度のエネルギー量が必要となるか、そのためにはどのような栄養管理をするべきかを提言する。・ 肥満ややい瘦など、不適切な栄養管理による病態の対象者に対し、対象者の思いを傾聴し、病態の背景を理解したうえで病態改善に向けた活動の提案や嗜好調整などを行う。・ 栄養状態に合わせた ADL を提案する。
② 身体計測	<ul style="list-style-type: none">・ 定期的に身長、体重、四肢周径計測など、身体計測を実施し、データの提供を行う。
③ 姿勢調整	<ul style="list-style-type: none">・ 対象者が誤嚥なく安全安心な摂食機能が発揮されるよう、実際の食事状況を評価し、適切な食姿勢をチームで共有する。
④ 食器・食器用具の選定	<ul style="list-style-type: none">・ 経口摂取の対象者が自力で円滑に食事が進められるよう適切な食器や食器用具の選定を行い、実際に使用状況を評価し、使用状況をチームで共有することをはかる。
⑤ 食環境の設定	<ul style="list-style-type: none">・ 高次脳機能障害や認知症による認知機能障害が食行為を妨げるときには、その対象者が落ち着いて食事に集中できるような食事環境を作るとともにチームで共有することをはかる。
⑥ 排泄状況の評価と対応	<ul style="list-style-type: none">・ 定期的で順調な排泄がなければ食思の発動もままならない。排泄行為の評価とアプローチを行う。

(一般社団法人日本作業療法士協会(編)：栄養マネジメントと作業療法 I 総論，4. NST について，作業療法マニュアル 64，p.13-14，2018. より引用)